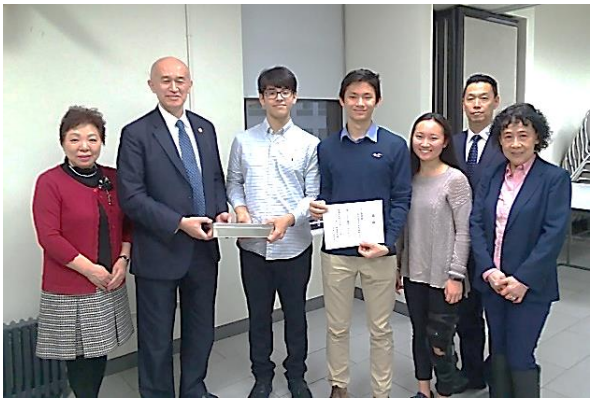
ニューヨーク補習授業校だより

絆・きずな

平成 31（2019）年
１月１９日発行
第３２号

夢のふくらむ学校

届け！　みんなの思い！



「補習校だより　絆　第２５号」(11/17/2018）でお知らせしたとおり、W校中高等部生徒会が、昨年１１月１０日に実施した恒例の一大イベント「のみの市」で得た収益金３,３００ドルを、北海道地震の被災地への募金として寄付しました。１２月２１日(金)、あいにくの天気でしたが、中高等部生徒会長保山健人君はじめ、ヘイズ・ガイタノ君、フォング・小山笑鈴さんの３名が坂口教頭、福田主幹の引率のもと、マンハッタンにあるニューヨーク日系人会事務局の野田さん、実際に寄付を届けてくださる「北海道ゆかりの会」代表竹田さんに、目録と現金を手渡ししました。

また、前号（第 31 号）でもお伝えしたとおり、ＬＩ校の中高等部のバザーの収益金は東日本大震災で被害に遭った同世代の皆さんへの支援金（公益社団法人はたち基金）として寄付されます。

両校中高等部の伝統となっているバザーにご協力いただいた皆様に深く感謝いたしますと同時に、主体的な取り組みを見せてくれた中高等部の生徒達の熱意と実行力にも大きな拍手を送りたいと思います。中高等部生徒達は、現地校の活動やスポーツ活動などとても忙しい生活を送っています。そんな中、補習校に通うことは大変ハードルが高くなってしまうのが現実です。補習校の授業や宿題ですら大変なのに、更に生徒会活動に取り組む生徒達には、頭の下がる思いです。しかし、皆が頑張ることができる原動力は何かと考えたとき、仲間の存在が大きいのだと思います。実際、行事の前には、仲間の家に集まって遅くまで準備をするなど、彼らなりに限られた時間の中で創意工夫をしたと聞いています。遙か遠くの日本に思いをはせ、心を寄せる若者達がいることを、少しでも知ってもらうきっかけになればと思わずにはいられません。

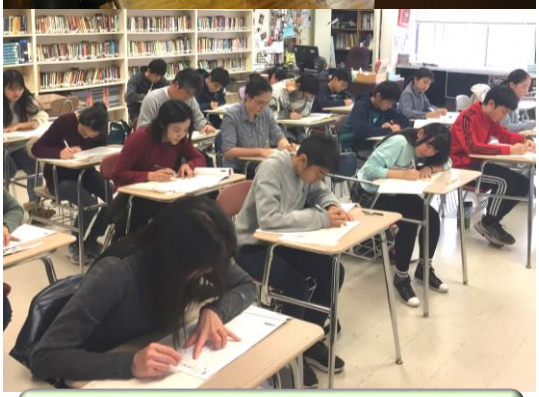
１月１２日、例年より２週間早く日本漢字能力検定（以下漢検）が実施され、両校併せて２７０名余が受検しました。
以下は、高校生卒業程度とされる３級の過去問の一部です。
皆さんは、どれだけ分かりましたか？

（答は各自でお願いします。）

1. 引き返す方がケン明だ。
   （ア、兼 イ、圏 ウ、倹 エ、堅 オ、賢）
2. 問い詰められてイナオる。
3. 湖のケイカンを一望する。
4. 関税率をめぐる両国の接衝は難航している。(誤字訂正)
5. 師の教えをキンカ玉条とする。
6. 彼は薄志ジャッコウのきらいがある。
7. ＜類義語＞漂泊―（　）浪
8. ＜対義語＞喜悦―（　）哀
9. .成績はイチジルシク向上した。
10. 垂(アノ　イ十　ウ土　エ丨　)

（10 は、部首名を答える問題です。）





保護者も多数受検した漢字検定